

福島 嘘と真実 東日本放射線衛生調査からの報告
〈目次〉

口 絵 各地での調査模様

著者紹介・2

図表目次・5

はじめに・6

調査結果の概要・9

1	2011年3月11日と直後	12
2	震災当日から現地調査まで	18
3	世界の核被災地調査で開発したポータブルラボ	20
4	札幌～仙台間の放射線衛生調査（4月6日、7日）	23
5	福島県民の甲状腺ヨウ素量の検査（4月8日、9日）	27
6	福島第一被災原子炉20キロメートル圏内調査	30
7	危険な範囲から安全な範囲まで線量6段階	34
8	福島の被災者にレベルC以上はいない	36
9	東日本の放射線は最初の60日間で急速に減衰した	38
10	チェルノブイリにならなかった福島理由	39
11	家畜を見殺しにした菅政府	42
12	あらためてチェルノブイリの健康被害	43
13	内部被曝 福島の低線量と科学	44
14	政府災害対策本部の科学上の誤りと危険	47
15	未曾有の核災害はウイグル、核の黄砂が日本全土に	49
16	核被災地は必ず復興できる	50

おわりに 東京での緊急報告会・52

新宿医師会での講演と質疑応答・53

福島第一原子力発電所前での測定・54

線量6段階区分・56

各地の測定・57

空間線量測定の基本・63

レベル7の根拠と矛盾・65

農作物への影響と核爆発のデマ・66

〈付録 世界の核災害・73〉

●チェルノブイリ事故災害・73

(『世界の被曝地調査』講談社・ブルーバックスより)

●スリーマイル島事故・75

(『お母さんのための放射線防護知識』医療科学社より)

●東海村臨界事故・75

(『世界の被曝地調査』講談社・ブルーバックスより)

●広島核爆発災害・76

(『世界の放射線被曝地調査』講談社・ブルーバックスより)

●ビキニ核実験災害・77

(『核爆発災害』中公新書より)

●桜蘭周辺での核爆発災害・79

(『中国の核実験』医療科学社より)

文献・81

索引・82

表紙イラスト：小林かよ子

(週刊新潮記者・竹中宏氏の福島県内での同行取材、一部写真提供に感謝)

図表目次

図 1	福島原子力発電所を襲った津波の様子・12
図 2	福島第一原子力発電所3号機(2011年3月21日撮影)・15
図 3	福島第一原子力発電所の事象の経過(3号機の場合)・16
図 4	世界地図 核の黄砂・18
図 5	世界の核災害地調査(1995～2005)・21
図 6	ガンマ線スペクトル(仙台市内と福島飯館村)・25
図 7	札幌から東京間の空間線量率(2011年4月6日～10日)・31
図 8	調査員の札幌から東京間の積算線量(2011年4月6日～10日)・31
図 9	福島第一敷地境界の空間線量率の推移・32
図 10	線量6段階区分・35
表 1	福島原子力発電所の地震津波影響の概要・13
表 2	政府の緊急避難指示の経過・14
表 3	ポータブルラボの器材一式・20
表 4	甲状腺線量検査の結果・28
表 5	線量6段階区分と人体影響のリスク・35
表 6	世界の核災害の比較・41
表 7	各地の農産物等の放射能(平成23年3月20日政府発表)・45
表 8	体内に入った放射性物質による内部被曝・46
表 9	確定的影響の例とそのしきい値線量・48

コラム目次

外部被曝線量、政府発表の予測値は過大評価、計画的避難の根拠に誤り・33
2011年6月18日、南相馬市での講演会で報告した筆者のリスク評価・51